

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 都市農村交流推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111 (内 3173)

E-mail : c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2 , 0 0 0 千円 (前年度予算額 : 2 , 5 0 0 千円)

< 財源内訳 >

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,500	0	0	0	0	0	0	0	2,500
要求額	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000
決定額	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

都市住民の新型コロナウイルスによるライフスタイルの変化における田舎暮らしへの関心の高まりや定年退職を契機とした農村での定住志向などの「田園回帰」の動きなど、日本の農業や農村への魅力が再認識されている。岐阜県の農村地域へ興味をもってもらうきっかけとして、多様な地域資源を活かした都市農村交流(グリーン・ツーリズム)を推進し、農村の魅力を広く発信して、農村の関係・交流人口の増加を図る必要がある。

(2) 事業内容

ぎふグリーン・ツーリズムを中心とした都市農村交流など、農村地域の資源を活用した活動の推進や情報発信を行う。

【内容】

- ・ 「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携したグリーン・ツーリズムの推進
- ・ 情報発信用 W E B サイトを活用した情報発信
- ・ 農家民宿を P R する W E B B O O K を作成するとともに
- ・ 大都市圏での移住・定住フェア等で P R ・セールス活動の実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

活動範囲が県全域にわたる協議会の活動と連携した施策であるため、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	450	職員旅費
需用費	60	事務用品購入費
役務費	60	郵送・通信費
委託料	1,400	WEB サイトサーバー維持管理、農家民宿ウェブブック作成
使用料	30	会場借り上げ料
合計	2,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、ぎふ農業・農村基本計画

(2) 後年度の財政負担

「清流の国ぎふ」創生総合戦略の計画期間である R5 まで実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業
☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

自然、文化など農村の豊かな地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムの推進及び都市との交流を促進し、農村地域の活性化を図るため、「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携して人材育成やネットワーク強化などの受入体制づくりと効果的な情報発信を図るとともに、都市住民に農村地域の魅力を発信することで、農村に人を呼び込み、農村機能の維持を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
農林漁業体験者数 (「清流の国ぎふ」創生総合戦)	— (R)	209 千人 (H29)	211 千人 (R30)	214 千人 (R1)	280 千人 (R5)	76.4%

○ 指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- Web サイト「ぎふの田舎へいこう！」による情報発信
グリーン・ツーリズム情報発信 Web サイト「ぎふの田舎へいこう！」を活用し、「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携した情報発信を行った。
- 「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携した受入体制の支援
推進協議会が実施する各種研修会やネットワーク大会等を支援し、県内のグリーン・ツーリズム実践者のレベルアップ支援を図った。
- パンフレット「ヒトビト」を作成
農村地域の魅力を発信するパンフレットを作成し、P Rを実施した。

（前年度の成果）

「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会との連携の下、グリーン・ツーリズムの情報発信を進めるとともに、コロナ社会における体験の提供方法の発信やぎふグリーン・ツーリズムネットワーク大会や研修会等により、県内でグリーン・ツーリズムの受入を行う人材の育成とネットワークづくりを推進した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い ：必要性が低い	
（評価） ○	都市住民と農村地域の交流を進めるグリーン・ツーリズムは、過疎化・高齢化が進む農村地域の活性化策として必要であり、憩や癒しを求める都市住民のニーズに合った活動である。また、農村コミュニティを維持するためには他地域からの人材を受け入れることが必要である。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている ：まだ期待どおりの成果が得られていない	
（評価） ○	県内各地にグリーン・ツーリズムの受入組織が設立され、地域の特色を生かした受入活動が展開されるようになり、県内での農林漁業体験者数は増加している。また、これが契機となり、農村における交流人口や関係人口の増加につながっている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている ：向上の余地がある	
（評価） ○	「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会や移住・定住担当課等と役割分担・連携することで、事業を効率的に実施できている。

(今後の課題)

新型コロナウイルスで影響を受ける実践者の支援及び都市住民に対して農村地域の魅力を発信し、交流・関係人口等の増大につなげる。

(次年度の方向性)

都市住民を中心に農山村の地域資源を生かしたグリーン・ツーリズム等のニーズは高いため、継続して情報発信し、交流人口の増加を図る。 移住定住担当課と連携して農村地域への移住希望者を対象に、農村の魅力を発信し、関係人口の増加を図り、農村地域の活性化に取り組む

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	移住・定住フェア及びぎふ農林業チャレンジフェア【地域振興課・農業経営課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	効率よく対象者にPRすることができる。

